

# #高松盆栽

## ～女子目線で“かわいい”を発信～

代表者 川本 和季 (経済学部経営システム学科 3 年)

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、全国シェア 8 割の高松盆栽を若い世代を中心にもっと身近に感じてもらうことを目的に活動しています。

近年では盆栽ブームが広がり、国内外問わず多くの人々が盆栽に興味を持っています。しかしながら、高松盆栽は全国シェア 8 割にもかかわらず、全国的に知名度が低く若い世代には親しみがなく、後継者不足といった問題が挙げられます。そういった問題の背景には「男性・高齢者・高価」といった一般的イメージが定着しているからだと考えられます。そこでそのような一般的イメージとは真逆の女子大生で若い私たちが高松盆栽の魅力を発信しようと発足されました。私たち女子大生が若者の立場で今までとは別の視点から盆栽の魅力を発信することによって多くの人に盆栽を親しんでもらい、さらなる認知度向上を目指しています。

### 2. 実施期間 (実施日)

平成 29 年 7 月 12 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、主な成果として「盆栽教室」・「盆栽づくりワークショップ」・「SNS・メディアを使った広報活動」の 3 つを挙げることができます。

「盆栽教室」ではプロの盆栽作家さんから盆栽についての知識や技術を学びメンバーのスキルアップにつながりました。ワークショップ後に行うアンケートでもワークショップに対する満足度が年々高くなっています。盆栽教室に通い個々のスキルアップを行うことでワークショップに活かすことができていると考えられます。

「盆栽づくりワークショップ」では、今年度以下の表より 32 のイベントに参加もしくは開催をすることができました。今年度の特徴としてカバヤ様や与島 SA 様、四国ガス様など多くの企業と一緒にワークショップを開催することができました。与島 SA 様や四国ガス様とは、今後もワークショップを開催していきたいと考えています。

また、今年度の新しい取り組みとして、瓦町 FLAG で女性限定の「盆栽教室」を開催しました。このイベントは、10月から2月にかけて5か月間決まった時間と曜日で行い、若い女性をターゲットにしたイベントでした。最初はお客さんの数も少なく広報活動も難航していましたが、徐々にチラシ配りや SNS での広報活動が活きてきてお客さんの数も増え最後は定員を超える応募がありました。四月からの開催を望む声も聞かれたため、来年度も継続して行っていきたくて考えています。



↑ 10月～12月のチラシ



↑ 瓦町 FLAG 「盆栽教室」の写真

### 【年間のワークショップスケジュール】

4月2日	多肥さくらまつり	10月25日	瓦町 FLAG
4月16日	UNOICHI	10月28日	坂出第四土曜デー
4月29日	鬼無・国分寺グリーンフェア	10月28日	直島環境フェスタ
4月30日	鬼無・国分寺グリーンフェア	10月29日	仏生山
4月30日	国分寺ファミリーマルシェ	11月4日	大学祭
5月14日	坂出第四土曜デー	11月12日	スタンドアップマーケット
5月27日	カバヤ	11月15日	瓦町 FLAG
6月24日	坂出第四土曜デー	11月23日	小豆島
6月25日	小豆島	11月25日	四国ガス展
7月16日	与島 PA	11月26日	四国ガス展
8月6日	ものづくり教室 (瀬居)	11月29日	なえどこ盆栽教室
9月2日	四国ガスショールーム	12月6日	瓦町 FLAG
9月3日	四国ガスショールーム	1月17日	瓦町 FLAG
9月8日	老人健康施設	1月27日	坂出第四土曜デー
10月7日	与島 PA	2月14日	瓦町 FLAG
10月21日	丸亀町グリーン	2月24日	坂出第四土曜デー

「SNS・メディアを使った広報活動」では、昨年度に引き続きInstagramやtwitter、Facebook を活用してきました。Instagramではフォロワーが6,000人を超え多くの方にBGPを知っていただくきっかけを作ることができていると感じています。Instagramのコメントでは外国人の方からのコメントも増えており、メンバー自身も世界的な盆栽の影響力や知名度の高さを実感しました。メディアでは、ガーカガワや毎日新聞の夕刊、ラジオ・雑誌でも取り上げてもらうことができました。香川県の地方タウン誌であるKomachiでは来年度も引き続き月一回の掲載を考えています。また、昨年度から行ってはいましたがなかなか結果に結びつけることができていなかった動画作成についても力を入れてきました。動画作成では、YouTubeにBGPのチャンネル登録をし、最初の動画を第一弾としてアップさせました。SNSだけでは限られてしまう需要をYouTubeの活用によって様々なジャンルの方々に見ていただくことが可能になったように思います。来年度は鬼無・国分寺に住む盆栽作家さんを中心に動画で作成していこうと考えています。



↑ YouTube の写真



↑ 香川のタウン誌「Komachi」

また、このプロジェクト事業により、今年度は昨年度以上に盆栽の魅力を伝えることができたと考えています。

「盆栽教室」では、先ほども述べた通り、個々のスキルアップにつながりました。平成28年度にとったワークショップ後のアンケートでは、「やや不満」と答えた方が何人かいました。しかし、平成29年度のアンケートでは、「不満・やや不満」と答えた方は0人になりすべての方が「満足・やや満足」と回答しました。小さな変化かもしれませんが、一年間でアンケート結果につながるような成果を出すことができました。今後はよりワークショップにお越しいただいたお客さんに満足してもらえようメンバーの力をもっとつけていきたいです。

「盆栽づくりワークショップ」では企業の方からのお声掛けが増え、BGP 自体の認知度が向上したことがうかがえました。岡山の企業であるカバヤ様からも呼んでいただき、香川県のみならず県外でもBGPの活動が増えるきっかけになりました。与島SA様や四国ガス様とのイベントは、どちらも2回以上開催し、1回目のワークショップが盛況だったことがうかがえます。どちらの企業様も今後もワークショップをしたいと考えています。また、瓦町FLAGの盆栽教室のようにターゲットを女性限定にすることによって私たちの活動の根本である「若い女性」を具体的に形にすることができました。



「広報活動」では、特に BGP の知名度向上につなげることができたと考えています。若い人へのアプローチを考えると今年度から力を入れた YouTube の存在は大きいと思います。今後も SNS やメディア、YouTube などそれぞれの魅力や見る人に合わせていろんな方向でアプローチしていきたいと考えています。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、本学への影響も多大でした。まず、11月には地域連携学生委員会のなえどことコラボして大学内で盆栽の講師をお呼びした講義と盆栽ワークショップを開催しました。このコラボイベントにより、地域の方はもちろん同じ大学生へもアプローチをすることができたと考えています。

私たちのプロジェクトでは広報活動に力を入れており、この一年でプロジェクト自体も有名になったと思います。新聞社や雑誌にも取り上げていただき、私たちの活動を知ることによってより香川大学のイメージ向上につながったと思います。

また、地域社会に与えた影響としては、今年度は自分たちで主催的イベントを行い地域でのイベントにより重点を置いてきました。瓦町 FLAG の女性限定イベントも地域に自ら赴いたイベントですが、そのような地域に出ていったイベントで地域のニーズや盆栽の可能性について肌で感じることができました。瓦町 FLAG という市街地にある場所で香川の伝統文化を提供することができて、少し距離のあるように思えた盆栽を身近に感じてもらうことができたと思います。



↑ 鬼無の盆栽作家さんと打ち合わせ

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトを一年間通して自分たちの成長に大きくつなげることができました。イベントごとの運営や広報、相手側とのやりとりなど社会に出てからも役立つことが多く、プロジェクトという大学内で学べたことは大きいと思います。特にこの一年は企業の方とのやり取りが多く、コラボを一緒にする上では情報の伝達が重要になってくることを学びました。自分たちはまだ大学生で時間的にも限られてきます。その中で私たちのプロジェクトのために時間を割いてくださる地域や企業の方々がいることに感謝し、当たり前状況ではないことを改めて学ぶことができました。「大学生だから」という言葉をよく言われます。良い意味でも悪い意味でも大学生の影響力は大きいと感じました。大学生だからできることはあるし、もちろんできないこともあります。ただ、私たちに期待してくださる地域や大学の方にできるだけ応えられるよう自分たちなりに大学生としてこれからも頑張っていこうという強い決意を持つことができました。

また、プロジェクトをしていることによって人前で話すことやプレゼンをする機会が多くなりました。メンバーそれぞれがプレゼンの機会を得ることによってプレゼン能力が向上し日頃の授業でのプレゼンにもつながったと思います。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今年度は YouTube の取り組みや女性限定の盆栽教室など新しい企画を実行することができました。その一方、動画作成に関しては、メンバー間で動画作成の技術に差が出ており一部のメンバーに編集を任せっきりになってしまいました。今年度は多くのメンバーが動画作成に携われるようにしていきメンバー間の技術格差をなくしていきたいと思います。

また、イベントが多くあり重なってしまうと上手く情報伝達ができないことがありました。幹部だけが情報を得ているのではなく、メンバー全体で情報の共有をしていくことが大事であると考えました。四月から新しく新入生も入ってくるので、メンバーが多くなった今、確実にメンバー同士の情報共有を大事にしていきたいと思います。

来年度からは、SNS 別の広報活動により力をいれていき、それに加えて自主的なイベント開催やコラボをしていきたいと考えています。

## 7. 実施メンバー

代表者 川本 和季（経済学部3年）

構成員 角野 真優奈（法学部3年）

静 輝美子（経済学部3年）

高森 日奈子（経済学部3年）

首藤 沙希（経済学部2年）

井上 七海（経済学部2年）

佐野 実怜（経済学部2年）

神野 玲菜（経済学部1年）

平岡 真矢（経済学部1年）

林 美玖（経済学部1年）

清遠 晏未（農学部1年）

上林 窓桜子（経済学部3年）

竹本 しおり（経済学部3年）

杉田 茉央（法学部3年）

尾山 絢菜（経済学部2年）

伊藤 里歩（経済学部2年）

十亀 稔理（経済学部2年）

田辺 早紀（経済学部1年）

野村 歩未（経済学部1年）

横島 友唯子（経済学部1年）